

合同視察

平成29年11月7日

徳島県勝浦郡上勝町

主なテーマ

- ・ いろいろ事業、農家（現地視察）について
- ・ 地域創生について（地域おこし協力隊の活用法と事例）
- ・ 「木質バイオマス事業」について
- ・ 「ゼロ、ウェイスト事業」について

◎ 徳島県上勝町

○ 目的

徳島県勝浦郡上勝町では、同町を一躍有名にした「葉っぱビジネス（彩事業）」や日本で初めてゼロ・ウェイスト宣言をした取り組みについて等、地域を盛り上げる様々な取り組み状況を調査事項とした。

今回、パンゲアフィールドを介しての研修を機に、日の出町が取り組んでいる関連事業や今後の事業展開に対して、どのように役立たせるか参考とするため。

1 葉っぱビジネス（彩事業、農家現地視察）

彩事業を行っている一軒の「彩農家」を訪問した。約180軒の内の一人である、DVDにも登場する西蔭幸代さんは80歳、現役のスーパー彩農家さんである。いわゆる「つま物」と言われる料理のかざりの葉っぱ類だが、上勝町では320種類を調達できるという。西蔭さんが始めたきっかけは縫製工場に勤務していた頃のこと、知人に勧められて紫陽花の青い花を出荷した。トレイが一つ1000円、10個を箱詰めで一万円の価格となった。定年まで仕事は続けたが彩事業の副業収入が20万円になったこともあるという。



所感

戸建ての家の中に6畳ほど仕事部屋、発泡スチロールのトレイと箱、それにパソコンとラップ包装用の機器がある。パソコンは注文を取るための必需品。畑にいても注文を確認できるタブレット端末も使っている。西蔭さんが出荷できる種類は100種、指名での注文も入る。農薬は使わない。鳥につばみを取られたりの苦労はある。温度調節などで品質管理や季節をずらすなどそれぞれの農家さんの独自のノウハウがあるようだ。

最近は一人で作業しているが、インターンシップ事業の参加者が手伝うこともある。つま物は売買時の見栄えで価格が左右される商品なのだ。プロ意識を持った農家さんにお会いして、彩事業は元気な高齢者を創ることに貢献していることも確認できた。

2

地域創生について（地域おこし協力隊の活用法と事例）

これら諸事業を通じて、パンゲアフィールド代表の野々山氏は、自分で事業をしたいという熱い思いから内閣府主催のいるどりインターンシップに参加、上勝町より地域おこし協力隊のオファーがあり、満期終了後に一般社団法人上勝ランドヴーを設立しパンゲアフィールドが誕生。

町が管理運営していた施設を改装しBBQ場、キャンプ場、コテージ、キッズ・アドベンチャー、森のアトリエ、ファミリークライミング、ボッカ・ネイチャーツアー、グランピング、M・C・E、アウトドア・ウエディングなど様々な事業を行っている。一貫している所は、「自然の楽しさ、不思議さ、かけがえのなさ」を脱日常体験サービスとして提供している。これを提供するために大手企業からの協力を取り付けるなど、人脈の広さを感じた。他が何かをしているかより、何を伝えたいかという強い想いであると感じられました。

3 「木質バイオマス事業」

上勝町の86%を占める森林。その間伐材を含めた森林資源の有効活用策として温泉施設燃料に利用している事業である。



所感

日の出町は山林が70%占めており、間伐材の活用。町内の製材業者さんが排出する木質チップの活用は以前から推進するべきだと言われております。今後、つるつる温泉や公共施設への活用ができないかどうか検証するべきと考えます。

4 「ゼロ・ウェイスト事業」

日本で初めて、ゼロ・ウェイスト（2020年までに焼却ゴミと埋め立てゴミを無くす最善の努力をする）を宣言した上勝町。住民自らがゴミを45分別し再資源化するリサイクルの状況やゼロ・ウェイストアカデミーとして幅広く活動を行っている。

所感

① 生ごみ全量堆肥化↓各家庭に1万円のコンポスト購入補助費、商業施設も業務用電動式生ごみ処理機を共同で使用して全て堆肥化↓これは上勝町ではほとんど兼業農家のため畑の堆肥として活用されるとのこと。

② ごみの分別、資源化生ごみ以外のごみは、家庭で洗浄した後、町内にか所ある「日比ヶ谷ごみステーション」に各自が持ち込み分別。毎日7時半から14時まで受け入れ。分別がわからない場合は現場作業員が分別を指導。自分で持っていけない高齢者には奇数月にNPOが運搬支援事業として有償で戸別収集をするとのこと。自己負担額は45リットル程度10円、粗大ごみ270円という格安にはびっくりした。

以上の主な取り組みは町全体が共通認識のもと一丸となって当たり前のように行われていることに驚嘆致しました。日の出町においてのリサイクル率は28%であり今後、上勝町の施策を参考にしながら先ずはできることからスタートしていくべきと考えます。